

件名	第10回外傷等動向調査委員会
日時	平成28年10月20日(木) 18時30分～19時30分
場所	市役所303会議室
出席者	<p>委員：足達寿 委員 久留米大学(委員長) 浅倉敏明 委員 久留米医師会 浅倉整形外科医院(副委員長) 山下寿 委員 聖マリア病院 平木重晃 委員 久留米広域消防本部 救急防災課長 内藤美智子 委員 久留米市保健所長 長嶋正明 委員 久留米市協働推進部長</p> <p>事務局：江原主幹、松本主査、末安(安全安心推進課) 笠次長、石橋補佐、中園(総務医薬課)</p> <p>対策委員会事務局：佐藤課長(安全安心推進課)、酒井課長(家庭子ども相談課)、 栗山課長、内田指導主事(学校教育課)、柴尾課長(長寿支援課)、 白谷所長(男女センター)、藤島課長(保健予防課)、赤司課長(防災対策課)</p>
次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 協議事項 (1) 再認証に向けた取り組みについて ①重点取り組み分野・項目について ②具体的施策について</p> <p>3. その他</p> <p>4. 閉会</p>
〈議事録〉	<p>2. 協議事項 (1) 再認証に向けた取り組みについて ①重点取り組み分野・項目について</p> <p>事務局 <事務局説明></p> <p>委員1 ガイドラインに定めてある弱者グループとは具体的にどのようなことをいうのか?</p> <p>事務局 各自治体が重点取り組み分野・項目を設定するにあたり、安全安心の観点から、特に配慮し予防策を講じるべきグループを対象として捉えている。 現在久留米市では、資料①17ページのようにグループ・環境を設定しており、今回のデータ分析等から、今後も継続したいと考えている。</p>

委員 2	<p>ハイリスクグループの「自殺のリスクのある人」について、例えばうつ病などにかかっている場合は自殺のリスクがあるのはわかるが、自殺する人全員がうつ病というわけではないので、そのような場合は、どうスクリーニングしようと考えているのか。</p> <p>また、「転倒によりケガをしやすい高齢者」とあるが、高齢者は、概ね転倒しやすく、これは高齢者全員が対象となるのではないか。</p>
事務局	<p>(2点目について)「転倒によりケガをしやすい高齢者」というのは、高齢者の中で転倒しやすい方と定義しているわけではなく、基本的に転倒により重傷になりやすいのは高齢者であり、データからも転倒により骨折して、介護状態になる高齢者の割合が高いことが言える。先ほどあった高齢者の中で転倒しやすい高齢者と特定した意味ではないと考えてもらいたい。</p>
保健予防課	<p>(1点目について)「自殺のリスクの高い人」の中で、うつ病以外の問題では、健康問題・経済問題・家族間などの人間関係の悩みが挙げられる。</p>
委員 2	<p>そういった個人的な情報をどうやって拾い上げるのかを聞きたい。取り組むためには把握しなければいけないが、どういう方法があるのか。</p>
保健予防課	<p>現在では、市保健所の相談窓口や各部局の窓口で情報をキャッチしている。</p> <p>例えば、水道料金の滞納など各滞納情報など、各分野の調査やそれに関する相談・悩みの気づきなどから把握したいと考えている。</p>
委員 2	<p>市職員をはじめ、自殺に対する感度を上げておかないと見過ごされていくケースも多くあると思うので宜しくお願いしたい。</p>
委員長	<p>質問が集中している資料①17 ページは、確かに分かりにくい。まず、「弱者グループ」という言葉も難しい。ハイリスク集団・ハイリスクグループ・ハイリスク環境というのも分かりにくい。</p> <p>この表現は、以前から使われているのか？</p>
事務局	<p>現在の認証申請の際は、このような表現になっている。</p>
委員長	<p>ハイリスク環境に関して把握するための何か手立てをしているのか？</p>
事務局	<p>ハイリスク環境については、筑後川の浸水地域ですが、例えば、概ね150年に一度程度おこる大雨、48時間で521mm、こういった氾濫した場合に5mを超えるような浸水地域を設定される地域が久留米市内にある。そういったものが近年の大雨、集中豪雨の関係で条件が厳しくなり、広く指定を受けるようになった。また、土砂災害についても、特別警戒区域という国の指定地域があり、近年の状況から、市も頻繁に災害時</p>

	<p>に備え避難所の開設を行うなど、国の地域指定やデータからリスク環境を設定している。</p>
<p>委員 3</p>	<p>(補足：SCパンフレット参照) セーフコミュニティの認証取得にあたり、7つの指標がある。その中の1つに、ハイリスクの集団・環境に着目し弱者グループを対象とした仕組みを築くことが挙げられる。久留米市においては、例えば4ページにある「10歳代から79歳までの死亡原因のトップが自殺である」というような各データから、18ページにある6つの重点取組分野を定めている。</p> <p>先程、事務局が説明したように、認証取得以降も、やはり自殺や交通事故が多いというデータなどから、状況は、基本的に5年前とそう変わっていない。よって、交通安全から防災分野にわたる6分野、そして分野ごとの取組項目、これらについては更に継続して取り組む必要があるというのが事務局の判断である。また、先程の弱者グループを対象とした仕組みという指標が必須条件にあり、筑後川や耳納連山は、河川や土砂災害のリスクがあることから、ハイリスク環境として取り組む必要がある。子どもや高齢者についても、必ずしもすべての子どもや高齢者が虐待を受けやすいということではなく、受けやすい環境にあったり、現実にもそういう実態があったりする中で、久留米市では弱者グループと位置付けている。このようなことから、繰り返しになるが、この6分野を今後も継続したいという事務局の説明だったと理解している。</p>
<p>委員 1 事務局</p>	<p>交通事故が起こりやすい場所というのは、ハイリスク環境になるのではないかと。 交通事故に関する取り組みについては、具体的な施策の中で対応を考えているので、すべてをハイリスク環境に挙げ、それだけを重点的にこなすものではない。</p>
<p>委員 1</p>	<p>市内で交通事故が多い場所は、大体決まっているのか。</p>
<p>委員 4</p>	<p>運転をしても、ここは見通しが悪いとか、急に狭くなっているとか、個人的にはそういう場所は、一定決まっているのではないかと思う。</p> <p>しかし、そのデータをどう抽出するかは、1つの課題かもしれない。件数は出てくるが。</p>
<p>事務局</p>	<p>交通事故が頻発する危ない場所などを校区で安全マップを作成し、マップの中に落とし込んでいく取り組みがあり、事故が発生しやすい箇所や発生している場所などは、一定把握できるのではないかと。</p>
<p>委員 5</p>	<p>交通安全マップに類似するもので、学校安全の取り組みの不審者対応として、校区安全マップの作成がある。防犯の取り組みにも地域安全マップの作成がある。高齢者の安全や子どもの安全、防犯の分野でまとめてやると効率的ではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そのとおりである。それについては、次の議題で協議したい。</p>

事務局	<p>17ページの表現が分かりにくいというアドバイスを頂いたと理解しているので、そこは整理させていただきたいと思う。</p> <p>(1) 再認証に向けた取り組みについて ②具体的施策について</p>
事務局	<p><事務局説明></p>
総務医薬課	<p>(補足) 資料②7ページの自殺予防の成果指標について、平成27年のデータが未入力だが、集計がまとまったのでこの場で報告したい。男性の自殺者数が40名、女性が18名、合計58名。3年連続で減少していたが、平成27年については残念ながら少し増加している。</p>
委員1	<p>高齢者虐待について、資料①の別紙22ページの高齢者虐待に関する通報・相談受け入れの中に久留米市とあるが、これはどういう意味か。</p>
長寿支援課	<p>庁内の各課から長寿支援課へ虐待の通報があり、その集計値が挙がっているものと考えている。</p>
委員長	<p>新規のパープルリボンキャンペーンとは、どんな取り組みか？</p>
男女平等推進センター	<p>DVのシンボルマークである紫のリボンを、「女性に対する暴力をなくすキャンペーン期間」の11月12日から25日に合わせて、多くの方に身に付けてもらったり、表に啓発用の標語、裏に相談機関を書いた葉をクリスマスツリーに吊り下げてもらったりして、意識啓発につながるキャンペーンを実施したいと考えている。</p>
委員2	<p>11月は、児童虐待防止の強化月間でもあるのだが、この期間を選んだのは何か意味があるのか？</p>
男女平等推進センター	<p>この11月12日から25日というのは、国が決めた『女性に対する暴力をなくす運動期間』になっている。今後は、児童虐待防止の分野とも連携して取り組みたい。オレンジと紫のリボンをコラボして、市民・事業所・対策委員の皆様と一緒に防止に向けて啓発したいと考えている。</p>
委員2	<p>職場では虐待にも関わっているが、DV防止がパープルというのは初めて聞く。市民の認知度はどうか。DVの頻度は小児虐待に比べれば格段に少ないとは思いますが。</p>

男女平等推進センター	DV相談の件数はまだまだ少ないが、潜在的にDVの被害を受けている方は多く、どれだけパープルリボンが広がっているかははっきりとわからないが、対策委員会では、ストップDVということで紫の旗を掲げて、対策委員会と共同でパープルリボンの啓発を鋭意進めているところである。
事務局	先日のSCフェスタでも、参加者とリボンを作ったり、配布するなど、地道な啓発もおこなっている。
委員 2	リボンが増えすぎて非常に分かりにくいと思う。ピンクが乳がん、グリーンが移植、他にもまだいろいろリボンがあって非常に分かりにくいので、リボン以外でアピールする何かがあればいいのかなと思う。しかも児童虐待はオレンジ。オレンジとまたパープルでなかなか難しいかなと思う。
委員 4	県の防災メールに登録しており、高齢者の徘徊情報等が入り、発見されたということがある。このような取り組みを久留米市でも実施しているのであれば、徘徊者を早期発見することにより、転倒による負傷が減るとか、先日のような損害賠償請求がからむ列車事故などに巻き込まれる前に防ぐことができると、高齢者の安全につながると思う。もし、何らかの形で、すでにこのようなことをやっているのであれば、施策の中に挙げてもいいのではないかと。現在の施策の中にこれらが見当たらないので、徘徊の早期発見を挙げると、安全につながるのではないかとという意見である。
長寿支援課	久留米市でも、市内の救急の関係団体と連携をして、高齢者のネットワークの仕組みを持っており、県の防災メール業者に発注しメール配信をしている。セーフコミュニティの中で出来るかどうかは検討させていただく。
委員 4	せっかくしている取り組みを、しっかりと認証の中で出していくというのは1つのPRになるのではないかなと思う。
委員長	ゲートキーパーの養成、ワンストップサービスの言葉の意味を教えてください。
保健予防課	ゲートキーパーとは、身近な人の悩みなどの相談を受ける人のことを言い、多くの人が自殺の予兆に気づくことを目的としている。具体的には、保健所が実施している研修等を受講された人をゲートキーパーと呼んでいる。
委員長	それは一般的な言葉なのか。
保健予防課	<p>現在、周知に努めているところで、国もゲートキーパーをそのような位置付けにしている。</p> <p>ワンストップサービスとは、ハローワークの窓口に出向き、仕事を探している方などに対して、司法書士や保健所の精神保健福祉士、保健師などが一箇所に集まって相談対</p>

	<p>応を行うものである。</p> <p>3. その他</p> <p>事務局長 今後の主な予定は、年内に調整会議を経て、来年の2月頃に推進協議会を開催する。その結果を、また委員会で報告するので、ご意見をいただきたい。</p> <p>それから来年度は、市民意識調査とけがや事故の実態調査を実施する予定。その結果を施策に反映していくとともに、昨年度実施した、医療機関のアンケート調査についても、前回委員会でいただいたアドバイスなどを参考に、けがや事故の実態調査の実施年度と調整して実施していきたい。29年度は、けがや事故の実態調査を優先して実施する予定。</p> <p>また、資料について、事前に配布していたが、量が多いので、委員会後でも、何か気づいたことや、アドバイスがあれば、事務局の方に連絡いただければ、各対策委員の方にも伝えたい。</p> <p>委員長 本日の議事終了</p>
--	---